

タイトル： 授業において学生が感じる心理的負荷

活動内容

1. 論文要旨報告

齋藤華子 (2007) 「スペイン語授業における外国語不安」

『清泉女子大学紀要』 Vol. 55, pp.A1-A11, 清泉女子大学.

2. 討論

論文で挙げられたいくつかの不安項目について、実際に授業で見られる学生の様子や不安の緩和
方法などを話し合った。以下にその一部を紹介する。

□授業中、スペイン語で発言する時に緊張する

- ・技能に対する不安よりも、そもそも人前で発言することに慣れていない
- ・リラックスして発言できるような雰囲気だとい
- ・ミスの訂正の仕方が難しい。
- ・発音などのミスは、コツを教えてできるようにしてあげるといい。
- ・その解答に至った理由をたずねると、解答を変える学生もいる。自信がないため、また、
正否の判定のみを期待しているため、理由を尋ねられることで驚くのではないか。
- ・緊張しすぎて疲れてしまうといけないので、学生に心理状態を尋ねる。
- ・深呼吸させると話せるようになる学生もいる。

□前もって準備していないことについて質問されるとあがる

- ・促進性不安とも考えられる。
- ・アトランダムに当てるか、名簿順、席順で当てるかにより、学生の緊張度合が違う。
- ・一度当たると安心して寝てしまう学生もいる。
- ・急に当てられると心臓が悪いという意見により、自発的に発言させるようにしている。

□スペイン語で作文を書かなければならないとき緊張する

- ・黒板に作文を書かせると、完璧な答えを書こうとする。前で訂正されるのを嫌う。
- ・周囲と相談してから書いてもいいようにしている。
- ・間違えてもらえた方がありがたいと伝え、授業中のミスを気にしないようにさせる。

□自分より他の生徒のほうができると思って不安になる

- ・第二外国語で学ぶ学生は専攻の学生よりこの不安は少ない。
- ・試験返却時に平均点と上位1～2位の学生の点数を発表するが、気にされていないかもしれ
ない。
- ・専攻の学生で、成績別クラス分けがある場合は、試験の成績をかなり気にする。
- ・日本の学生には、「テスト不安」はあまりないのではないか。